

明治初頭、多くの日本人が知る由もなかった鉄道とホテルという施設を初めて創り上げた二人の奇士がいる。
長い眠りから目覚め、突如世界に開かれた日本は注目を集め、海外からこの国を訪れる外国人が急増した。
その時、未曾有の創造力と先見性をもって
海外に比肩する国を創造すべく怒濤の時代に挑んだイノベーターたちだ。

偉人伝

the life of a great person

土木
建築

VOL.14

建築

インハウンドの
原点とも言える
老舗ホテルの創業者

山口 仙之助

Senosuke Yamaguchi

「一八五一年～一九一五年」



1878(明治11)年、名だたる国内名士たちの宿泊をことごとく謝絶したホテルが箱根・宮ノ下
に開業した。外国人の宿泊に特化した「富士屋ホテル」である。

創業者の山口仙之助は1851(嘉永4)年に現在の横浜市に生まれた。その後、養子に出され、
浅草の漢学塾で商業を学んだ後、20歳で渡米。将来の牧畜業の有益性を信じ、苦勞しながら資金
を蓄え7頭の種牛を購入して帰国した。しかし、国内での牧畜業の隆盛には時期が早く、これを
売り払い慶應義塾に入学する。ホテル業に目覚めたのは福沢諭吉に国際観光の重要性を説かれた
ことによる。山口は牛を売却して得た資金を元に、外国人の憧れの的である富士山を一望する地
に洋風建築の粋を集めた富士屋ホテルを開業、わが国の近代化を世界にアピールする拠点の創始
者として名を馳せた。木造でありながら強固なつくりの本館は、関東大震災時にガラスが1枚も
割れず今日まで至っている。後藤新平をして「若し政治界に入らば、一方の旗頭となり得るであ
らう」と評されるほど剛直かつ一徹の人物だったという。

来年から大規模な耐震補強が始まる富士屋ホテル。2020年の再開業後も日本の観光史、近代
建築史にその名を刻み続けていくに違いない。

土木

近代日本の基礎となる
鉄道を敷いた
鉄道建設の父

井上 勝

Masaru Inoue

「一八四三年～一九一〇年」



1843(天保14)年に現在の萩市に生まれ、6歳の時に野村家の養子となり弥吉と名乗った。16歳で
長崎に遊学してオランダ士官から兵学を、更に江戸に出て砲術を学ぶ。1863(文久3)年に藩命により
伊藤博文らとともに密航、ロンドン大学で鉱山技術・鉄道技術を修め、1868(明治元)年に帰国した
際に、井上姓に復帰して井上勝と改名する。その3年後に工部省に入省し、ここから井上の鉄道人生
が始まった。当時の日本で「鉄道」を知るものは少なかったが、欧州で鉄道の隆盛を目の当たりにした
井上には、このインフラが近代産業の骨格になり得るという確信があった。井上は東西両京を結ぶ鉄
道建設という大構想に力を注ぐ。1872(明治5)年に開通した新橋-横浜間の路線もこの計画の枝線
と見ることできる。その後も国民や政治家の説得に奔走し、各地で鉄道敷設に携わっていく。その
間、イギリス人技術者の主導に忸怩たる思いがあったかもしれない。紆余曲折を経て1889(明治22)
年に東海道本線が開通、井上はその功績が評価され同年に勲一等瑞宝章を授けられた。

晩年に「吾が生涯は鉄道を以て始まり、すでに鉄道を以て老いたり、まさに鉄道を以て死すべきの
み」との言葉を残した。東京駅丸の内中央口前に置かれた井上の銅像が今も鉄道の来し方、そしてそ
の未来を見つめている。